



能登半島地震から10月1日で9ヶ月。復旧作業が緒に就いたばかりというのに先月の記録的な大雨でさらに被害を受け「二重被災」とも言われる厳しい状況の人々が少なくなく、生活の再建に向けた支援の継続が求められています。

現在、上田市社会福祉協議会では、復興に向けてのボランティアを募っていますので、多くの方のお力をお貸しいただければと思います。

被災された皆さんに心からお見舞い申し上げます。

上田市は災害が少ない地域と言われていますが、5年前の10月12日に発生した別所線橋脚崩落、神川地区での越水災害等を思い出してください。

地球温暖化に伴う自然現象の変化は、私たちの想像を絶する勢いで大きく変化・変貌を遂げ、まるで熱帯地方のような短時間豪雨など、春夏秋冬の季節感を感じられないほどの状況となっています。

こうした状況を踏まえ、市民一人ひとりが共助も含めた対策を考え、対応して行かなければと、自然の素晴らしさと脅威、身をもって考えさせられます。



上田市自治会連合会会長
中村 彰



令和6年度各地域自治会長視察研修の実施

令和6年度は、5月下旬から7月下旬までの間に、上田、丸子、真田、武石の各地域において、自治会長を対象とした視察研修が実施されました。

今年1月1日には能登半島地震が発生し、津波による浸水や液状化により道路、上下水道施設を中心に多大な被害をもたらしたこともあり、4地域とも防災関連施設等の視察研修を行い、防災・減災の知識や理解を深めるとともに、自治会長相互の情報交換もでき、有意義な研修会となりました。



各地域自治会長研修視察の報告については、次ページをご覧ください。

「自治会に加入しましょう。」

いざというときは、自治会が頼りになります。たとえば、災害が起きたときには、隣近所の助け合いが必要です。

日頃からご近所同士の交流を大切にしましょう。

ぜひ、自治会への加入をお願いします。



上田地域の自治会長視察研修は、6月28日富山県富山市の「四季防災館」を視察研修しました。

この施設は、富山の春夏秋冬の災害や自然の特性を体験できる学習施設を活用し、自然災害の歴史とその克服に向けた先人たちの努力についても学べる体験型学習施設です。

地震の揺れを3次元に動く振動装置で、振動や加速度等のデータ及び地震波の波形表示を見ながら、阪神淡路大震災や東日本大震災ほかで発生した同震度の揺れをリアルに体験できました。



また、映像スクリーンの火災に向けて放水し、正しく放水を続けると映像が変化して消火が成功する仕組みで、正しい消火行動も体験できました。

幅7.7mの大型スクリーンで東日本大震災などによる津波・土砂災害を体感し、発生メカニズムを学ぶことができました。

「首都圏外郭放水路」は世界最大級の地下放水路です。台風などの際には、中小河川の洪水を取り込み、地底50m、総延長6.3 kmのトンネルを通じて江戸川へ水を流して水害を防いでいます。大きな柱が並び立つ荘厳な様子から「防災地下神殿」とも呼ばれる「調圧水槽」には大きな空間が広がっています。満杯になることが想像できないほどのスケールですが、柱の高い位置に残る水の跡から過去に流入した水の量を想像することができ驚嘆



するほかありませんでした。

また、併設のミュージアム「龍Q館」では、地下放水路の役割や洪水の仕組みについて学ぶことができました。模型や映像を通して、水の持つ力やその恐ろしさについて再確認できました。

他地域の治水システムを知ることで、水防に対する見識を広める機会となるとともに、水害について意識を高める機会とすることができました。

真田地域自治会

いわき震災伝承みらい館視察研修（福島県いわき市） 5月31日(金)・6月1日(土)実施

未曾有の大災害となった「東日本大震災」から13年が過ぎました。記憶に新しい今年元旦の「能登半島地震」でも、多くの方がお亡くなりになり、被災地では、通常的生活を取り戻すまでには相当の時間を要する状況です。

今年はテーマを『地域で取り組む防災活動～震災の教訓を忘れない～』とし、被災された地域から貴重な実例を学び、地域における今後の防災や、自治会での取組に活かすため、福島県いわき市の「いわき震災伝承みらい館」を視察しました。

パネルや映像、被災した学校の備品等が展示され、



震災の記憶や教訓を伝えてくれる博物館でした。館内を視察したあとは、「震災語り部」がバスに同乗して被災地域を案内してくれました。

語り部Oさんは、他で同じようなことが起きてほしくないとの思いから語り部を始めたそうです。復興事業の整備で完成した公園施設や、被災時に避難生活を体験された学校施設等を案内されました。最後に防潮堤横に広く整備された駐車場に着くと「この場所に私の家がありました。集落ごと津波で…」。

最後に「ここは大丈夫と思い込んでいた」と当時を振り返るOさん。我々にも思い当たることがあるのではと考えさせられました。



武石地域自治会

白馬村神城断層・富山県四季防災館視察研修 (長野県白馬村・富山県富山市) 7月26日(金)・27日(土)実施

元日の能登半島地震をはじめ、各地で地震や豪雨など多くの災害が起きている昨今、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識で住民同士が助け合い、自主防災組織が効果的に機能できることを目指し地域の防災をテーマに視察しました。

白馬村では、長野県神城断層地震で下敷きになった家屋の中から被災者を助け出すことにより、1人の犠牲者も出さなかったことは、日々の暮らしの中で助け合う近助が機能したこと、自助だけでなく普段



白馬村視察

からの付き合いや、人を思いやり助け合うことが大事な共助の大切さを再確認できました。

四季防災館では、雨風災害体験、流水体験や実際の地震が起きた地域の震度が体験できる地震体験等で身をもって災害の厳しさを体感できました。

日頃の過ごし方や備え、訓練の大切さ、地域ぐるみの防災意識の向上など、自治会として今後の取組について考える良い機会となりました。



雨風災害体験

部局懇談会の開催

当自治会連合会は、各地区連合会から自治会運営や活動等に関する課題の提出を受け、その解決に向け検討・協議を行っています。

今年度は、以下の課題について、市の関係部局と情報共有するとともに、解決に向けたご意見やご指示等をいただくため、8月23日部局懇談会を開催しました。

- 【議題】
- (1) 上田市消防団の団員確保について [担当 消防部]
 - ア 団員確保対策（若い世代の確保対策、企業への協力要請等）の実績はどうか。
 - イ 企業への「選任要請」の妥当性（可・否）はどうか。
 - (2) 自治会運営と自治会未加入者の社会通念上の義務負担 [担当 環境部]
 - ア ごみ集積所の維持・管理義務は自治会にあるか。
 - イ ごみ分別の徹底に関する市と自治会の役割分担はどうか。
 - ウ 自治会未加入者に対する各自治会の対応を把握しているか。
 - エ 自治会未加入者対策の実績はどうか。今後新たな対策を検討しているか。



福祉推進員制度の廃止について

令和5年度市政三者懇談会における議題、「市が自治会等へ依頼している委員の見直し」16項目のうち、上田市社会福祉協議会が依頼する福祉推進員は、「令和7年度以降の選任に向けて見直しを協議する」とし、その後、同協議会理事会（令和6年9月9日開催）で、福祉推進員制度の廃止が決定しました。

なお、「地域ふれあい事業」は、地域の皆様と連携して継続される予定です。

編集後記

近年、能登半島地震など、毎年のように想定外の大規模災害が発生しています。災害時など、いざという時には人と人の助け合い（共助）が大切で、自治会はその基礎となる組織ではないかと痛感しています。自治会を社会資源として捉え、持続可能な自治会を目指しましょう。



上田市自治会連合会事務局

E-mail: jichiren@city.ueda.nagano.jp

TEL 22-4130 (直通)
TEL 22-4100 (内線) 1308
FAX 23-5246